



活躍の現場から



● 市独自の英語施策に 53 名の JET-ALT を活用 —— 箕面市教育委員会

世界で活躍する子どもを育てたい

箕面市では 2016 年度より「世界で活躍できる子どもを育てる」「臆せず英語でコミュニケーションを図ることができるようになる」ことを目標に、箕面市独自の英語教育をスタートさせました。

小学校では週 1 回の 45 分授業に加え 15 分のモジュール学習を週 4 回、中学校では週 4 回の授業に加え、「聞く」「話す」といった音声によるコミュニケーション能力の育成に重点を置いた「英語コミュニケーション科」を週 1 回実施し、毎日英語に触れるようにしています。

チームで働く ALT

現在箕面市には、小学校 12 校、中学校 6 校、小中一貫校（施設一体型）が 2 校あり、ALT が 60 名勤務しています（うち JET-ALT は 53 名）。小学校には 2~4 名、中学校には各校 3 名が勤務しており、各校の ALT が一つのチームとして、互いに協力しながら仕事を進めています。

箕面市では一つの授業に複数の ALT が入るチームティーチングの形態をとっているため、担任や英語担当教員とだけでなく ALT 同士でも打合せをし、互いの役割を確認したり、活動について相談をする必要があります。チームで働くことで、先輩 ALT が学校のこと、日本のことなどを伝えたり、担任や英語担当教員との間に入り打合せができるので、初めて日本で働く ALT もスムーズに職場に馴染めるようになります。また、ALT 同士が授業を公開し、お互いの授業を見学することで指導技術を高める研修も行っています。

多様な ALT と子どもたち

ALT が複数学校にいることで、子どもたちは、音声的にも文化的にも多様なものに触れることができます。そうした中で、子どもたちは、他国から来た人たちと接することや、英語を聞いたり口にしたりすることに対するハードルが下がり、それが「臆することなく英語でコミュニケーションを図る」ことの土台となっています。



複数 ALT によるチームティーチング



社会科の授業で人種差別について話をする ALT



ALT の公開授業を他校の ALT が参観